

三笠・月形・美唄地区の財政財務活動

三笠市立三笠小学校

沼倉 克弘

1. 三笠・美唄・月形地区の研修

私たち三笠・美唄・月形地区事務職員協議会は通称をピカイチ地区と呼んでいます。美唄、月形、三笠はそれぞれアイヌ語地名でピパオイ、カバト、イチキシリという地域にあります。現在、三笠市の学校数は4校で会員数4名、美唄市は9校で9名です。そのうち新採用職員が2人、期限付き職員が1名です。月形町については残念ながら2校で会員が0名です。2010年度には学校数が21校で会員数は20名でしたので、ここ数年で大幅に会員数が減少したことになります。このような状況ではありますが、ピカイチ地区は研修と親睦を深めることを目指し活動を進めてきました。研修テーマは「地区研修の活性化と領域の深化発展を目指す」と設定し、全体研修会を年に5回行っています。また、2007年度からは、地区を「財政グループ」「情報グループ」「学校間連携グループ」という三つのグループに分けてそれぞれアンケート活動やグループ別研修を行ってきました。人数の減少に伴い、三つのグループに分けて研修することに大変な困難さを感じながらも、全体研修会では毎回、各グループの活動状況の交流をした後、年度当初に計画した順番にグループを提起担当と実務研修担当に分けて、事例・成果・課題を発表し意見交流を行ってきました。また管内研究大会、全道研究大会、空知教育センター研修講座、管外視察研修等の還流報告と、事例や個人の実践等を持ち寄っての発表を行い、活発な論議を進めています。そして全体の研修が終了した後はグループ別研修を行い、毎回、有意義な全体研修会となっています。

ピカイチ地区では2014年度と2015年度の空知管内事務研究大会で発表を行うにあたり、各グループで次のようなとりくみを行いました。

- ・ 財政財務グループ
徴収金の実態調査など
- ・ 情報グループ
各校サーバー内のデータ整理・管理の現状とPCにおける個人情報保護について
- ・ 学校間連携グループ
事務便り、子どもアンケート、地区内各市町の予算要望活動の中での学校間連携などについての実態や実践の交流

今回は、2年にわたる空知管内研究大会での発表をもとに、その後の経過を加えて発表します。

2. 財政財務グループのとりくみ

財政財務グループでは、2012年度までに「領域を基本にした実践の深化に向けたとりくみを提起できるか。予算要望活動の展開をどうするかを検証する」や「学校徴収金の実態と検証 予算要望書の作成のあり方と目的を再認識し、とりくみへの意識向上に向けての提起をする」などの研修課題を設定し研修を進めてきました。具体的なとりくみとしては、予算要望活動がどのような状況にあるのかを知るために管内各市町へのアンケートを行い、地区内で学級・学年費やPTA会費と修学旅行費用、さらに学校給食費の金額や徴収方法についても調査を行ってきました。その中で子どもや保護者の要望を活かした予算要望のあり方を探り、ピカイチ協議会全体が、子ども・保護者の声を聞くとりくみを進められるよう研修を行ってきました。またこれらの調査の中で各市町村の実態を参考にしつつ予算要望書の作成のあり方や目的などを再確認し、予算要望のとりくみへのモチベーションをピカイチ全体で高めていくことが課題となりました。また各市町のそれぞれの徴収金額と集金方法の違いを再確認し、子どもアンケートを行っている学校は限られており、地区としては子どもアンケートが予算要望に活

かされているとは言えない状況でした。そこで更なる子どもアンケートのとりくみの活性化や、児童生徒の目線からの要望を予算要望へ反映することなどが必要なことが明らかになりました。

その後 2013 年度は研修課題を「学校徴収金の実態と検証 予算要望活動の検証」として、あらためて保護者負担金のアンケートを実施し、検証を行い、次年度に継続できる課題を模索しました。その結果、公費で負担軽減できるものをいくつか洗い出し、その中から多くの学校で見られる紙ファイル等の軽微なもの削減・公費負担を次年度提案するように、さらに詳しい内容のアンケートを行うこととしました。

2014 年度は研修課題を「保護者負担金の実態調査と検証～予算要望書の作成のあり方と意識向上」としました。前年度のアンケートの反省から、実習費、学級活動費、PTA 会計の支出の中から配当予算で執行し得るもの、入学前準備品の実態、進路指導費の支出内容、生徒会費の支出項目について詳しい調査を実施しました。調査分析は十分ではありませんでしたが、その調査結果をもとに全体で話し合い、「実習費の内容を知りたい」、「氏名印は中学校へ」、「結果をもとに PTA と話し合った」、「学校運営に係わるお金の流れを知る必要がある」、「教員の啓蒙が必要」、「学級活動費と学校配当のかかわり（内容、公費負担）をどのようにするか」などの意見が出されました。それを受けての具体的なとりくみの提起は次年度以降継続して研修することとして残されましたが、各市の振興会でのとりくみにもつながりました。

2014 年度に実施したアンケートは、次のとおりです。

「財政財務グループ学校徴収金アンケート」

① あなたの学校で実習費、学級活動費、PTA 会費を集めていますか。その中で配当予算で執行できるものはありますか。あれば記入してください。（記入例 集めている。〇〇〇を配当予算で執行でき

る。）

- ・実習費
- ・学級活動費
- ・PTA 会費

② あなたの学校で、新一年生の入学前に準備する物の内容を記入してください。（学校が指定して購入するもの。たとえばジャージなど）

③ あなたの学校で、進路指導費は集めていますか。集めていれば、その支出項目を記入してください。（記入例 郵券代、旅費など）

④ 児童会費・生徒会費の支出項目を記入してください。

⑤ 修学旅行の見積書（業者作成）のコピーを提出してください。（ファックス可）

3. 学校間連携グループのとりくみ

学校間連携グループでは、2007 年度より継続して情報グループと財政グループの研究を受けて、その中から地区全体でとりくむべき課題をとりあげ全体に提起できるよう研修を進めてきました。またこどもアンケートと事務だよりについて、各校での実践の交流を行ってきました。

2013 年度も引き続き、こどもアンケートと事務だよりの実践交流を行いました。また情報グループが調査した結果から、各校でのサーバーの整理を年度末反省で提案することを提起しました。

2014 年度は情報グループが行った具体的なサーバーの整理についての学習をもとに、年度末反省等で提案するなど、引き続き各校で働きかけていくように提案しました。また事務だよりについて、各市町の状況をあらためて聞き取りまとめました。そして各学校で保護者向け、職員向けに発行できるよう努力をして行くことと、現在発行しているところ

は続けることを提起しました。各市町で発行されているものは、次のとおりです。

- ・美唄市 ～ 保護者向け（単独② 学校だより④）生徒向け①、職員向け
- ・三笠市 ～ 職員向け
- ・月形町 ～ 職員向け

グループとして研修を継続している事務だよりについては、発行している学校が増えずに、地区全体にはとりくみがなかなか広がっていません。多忙、苦手意識等が理由となっているようです。個人としてではなく、中学校区、市町全体の事務便りの発行を視野に入れることも考えていくことが必要かもしれません。子どもアンケートについても、各学校でのとりくみ状況と実践についての交流を行いました。市町ごとにまとめた状況は次のとおりです。

・美唄市

昨年度実施している学校では継続して行われ、さらに新たに実施した学校もありました。そのうち一校では年度末反省での提案から、児童会のとりくみとして行われた学校もあります。（事務職員の関わりはアドバイザー的存在）

・三笠市・月形町

とりくまれていない。

また地区内各市町での予算要望について、学校間連携をどのように行っているかということを含めて調査し交流を行いました。結果は次のとおりです。（月形町については会員がいないため、電話による聞き取りを行いました。）

・美唄市

教研協の事務部会では、具体的な論議をもとに実のある要望を目指して、市内全校の共通要望をまとめ、教研協として要望書を提出していましたが、2016年度予算要望については、市教委の対応が変わったため、提出を断念しました。

・三笠市

8月に提出する各校予算要望書の作成時期に、教育振興会学校事務部会で共通要望事項の確認を行っています。また市内各校の予算要望を比較検討し、学校種別、学校区で要望に矛盾がないか、要望をそろえたほうが良いかなども検討しています。各校の要望書提出後はヒアリングの状況やその後の対応などについても交流を行っています。

予算要望とは別に、学校教育係担当者に、年度末の教育振興会事務部会の際に参加してもらっています。そこでは事前に提出している「学校運営上の課題と要望」について回答してもらいます。その中で事務改善についても、双方から意見や要望を出し合っています。具体的には、卒業証書の印影の印刷や、就学援助認定名簿の改善などが行われることになりました。また教材費の未納が多いため、就学援助費学用品費について、修学旅行費と給食費と同様に学校長委任払いが行われるようになりました。

2015年度予算 共通要望

美唄市教育研究協議会学校事務部会

項目	要 望 事 項	市 教 委 回 答	
学校管理関係	1. 庁用備品の整備について	1) 児童生活の机・椅子の更新については、更新1期しましたが、10年を経過していることから、新たな整備計画を策定し、それに基づき整備をお願いします。予算の対応については、年度末に調査をし、それに基づき学校間の調整をお願いします。	平成27年度については、中学校区の整備を優先予定です。
	2) コピー機・印刷機、複写機、芝刈機等の更新については、整備計画に基づいて実施をお願いします。	更新がある学校については、事前に議決となり、必要経費等を確保しています。	
	3) 網戸・カーテンの更新についても整備計画に基づいて、全学校で実施していただきます。	計画に基づいて進めたい予定です。	
	2. 放送機関係の整備について	1) 各学校の校内放送設備を老朽化が進んでいますので、更新をお願いします。	設備更新を実施しながら対応していきます。
保護者負担の軽減について	3. ワックス掛けの業者委託について	1) 体育館の床ワックス塗布については、今後も継続していただようお願いします。	恒久的に実施しています。平成27年度については、実施のまじか。
	4. 備品・消耗品の改善について	1) 不要物品及び理科用品の改善については、今後も継続して実施していただくようお願いします。	学校運営の経費として、平成27年度については備品と消耗品の改善策を予算化する予定です。
	1) 各学校では、いまだ教育活動において保護者負担に頼っている状況が続いています。費用の配分は基準費の要求額と同額を上回るようお願いします。	説明書の取扱いについては、市の財政状況が厳しい中、毎年度改善してまいります。基準費についても同様に対応策を講じてまいります。	
	2) かつて「子どもの夢づくり事業交付金は、現金交付だったため、有効活用できましたが、その後は費用費に上積みされました。これにより交通費や入場料などの経費の支出が難しくなり、活動を制限したり、参加人数の確保が難しくなりました。ぜひ現金で支給されるよう交付金の要望をお願いします。	事業の進捗による、交付金というものはおぼつかない。事業費については、必要に応じて交付金として交付いたします。交付額は2,000円、その他22,000円です。交付金の上乗せ配分にはなりません。費用負担の軽減を図ります。交付金についても同様に対応策を講じてまいります。	

項目	課題と要望	回答
予算要望	1. 次年度予算要望（ヒアリング）で上げたもので予算措置されたものについて、わかる範囲でお知らせください。（大きなもの） 2. 予算ヒアリングおよびヒアリング後の実地調査について、来年度も継続実施をお願いします。 3. 各種補助金について大きな変更はありますか。	
市費経理	4. 卒業証書の印影印刷についてはたいへん助かっています。できれば児童生徒氏名、生年月日、証書番号についてもお願いしたい。（印刷または業者による筆書き） 5. 4月当初の学校への予算配当を早くするのは難しいでしょうか。	
備品関係	6. 備品購入について、納品時期が早くなり助かっていますが、1学期早い時期に使用するものなど特別な場合は、対応をお願いしてきました。今後もよろしく願いいたします。 7. 児童生徒机椅子の更新はどうなりましたか。（全体または順次更新など） 8. ストープの更新はまだ途中ですが、来年度および今後の見通しをお願いいたします。	
就学援助	9. 要保護・準要保護の認定／取消結果について、年度当初の決定名簿はできるだけ早くお願いします。また追加や取り消しなどの変更については、修学旅行経費徴収や、校外活動補助金の請求事務、日本スポーツ振興センター事務などとの関連があり、都度通知をお願いいたします。また認定児童生徒の転居、転学などについても学校教育係と学校間の連絡を迅速に行う必要があります。あわせて名簿の送付方法を含め情報の伝達は、プライバシーとセキュリティに十分配慮した方法でお願いします。（現状の維持をお願いします） 10. 申請書の学校長意見と職印については、なくしていただきたい。（以前意見がない場合はそのまま空欄でよいとお話を伺いましたが、変更ありませんか） 11. 扶助費目の変更はありませんか。（PTA会費、生徒会費などの追加）	
その他	12. 小学校給食費補助金について、学校の口座を経由しない方法にしていただきたい。方法の変更ができない場合は、学校への交付日と市への入金日の間隔をあげていただくと、即日の作業ではなくとも処理できるようになります。ぜひご検討下さい。（月初めの手続きで15日交付など） 13. 給食試食代金の支払いを各月（当月または翌月）で処理していただき、ありがとうございます。現状、学校と保の連絡で月処理、年処理が可能だと思いますが、間違いありませんか。	

・月形町

予算要望の話し合いは特に持たれないが、必要に応じて小中で連絡を取り合っています。

以上、学校間連携グループでは、財政、情報のグループより提起された問題について、地区全体の課題としてとりくめるように研修を行ってきました。継続してとりくんでいる事務だよりとこどもアンケートについては、なかなかとりくみが広がらない状況ですが、必要なものとして今後も継続して研修を行っていきます。そして仲間と話し合うことから学校間連携は始まり、ともに課題解決に向かうことで、「領域」が深化発展し・定着化していくという考えをもとに、今後も研修を深

めていきたいと考えています。

4. 今後に向けて

現在、ピカイチ地区はグループ研修体制を見直し、財政財務と情報の二つのグループでの研修をスタートさせたところです。そして各グループとも少しでも研修の焦点をはっきりさせ、徐々にでも研修を先へ進めるようとりくもうとしているところです。財政財務グループでは、これまでより具体的な学校徴収金の調査や分析を計画しています。

空知管内では、2015年より期限付き職員や新採用職員の配置が増え、また退職を迎える職員も多く、これまで経験年数の多い会員がほとんどだった状況が変わってきました。ピカイチ地区も同様の状況です。そのため地区の全体研修では、実務研修や質問コーナーなどの充実を図り、グループ研修でもテーマや話題に工夫が必要となっています。

今回の発表では、2014年度と2015年度の空知管内事務研でのピカイチ地区の研修についての発表をもとに予算要望に関する部分をまとめて、レポートにしました。もともと予算要望に焦点を当てた研究発表から仕上げたものではないため、多くの検証やその結果を載せることはできませんでしたが、少しでも話題の提供ができればと思います。また今回の分科会でたくさんご意見をいただき、他の支部の発表から学ばせていただきたいと思います。そして保護者負担の軽減を目指し、子どもや地域の要望を反映できる効果的な予算要望が行えるよう、今後の地区の研修に活かしたいと思います。